

## 「二諦分別論」にみられる表現 *yug pa rkyang* について

赤 羽 律

1. Jñānagarbha (ca. 8c.) の『二諦分別論』(SDV) には、自註 (SDVV) と Śāntarakṣita による細疏 (SDVP) がチベット大蔵経中に残っており、既に多くの先行研究がなされている。また SDVV の現代語訳としては古くは長澤実導氏、最近では松下宗氏によって和訳が、M.D.Eckel 氏によって英訳と批判的校訂本が出版されている<sup>1)</sup>。それにも関わらず、サンスクリット原本を欠いているためか、内容の理解に関して不明な点を未だに多く残していることも事実である。この論文で取り上げる表現 *yug pa rkyang* もまた SDVV と SDVP に一例ずつ見出されるものであるが<sup>2)</sup>、これまでにその意味が確定されているとは言い難く、この論文でその意味を明らかにし SDV の正確な理解に少しでも寄与できればと思う。

2. まず最初に、この表現にはどのような訳が可能であろうか。*yug pa* 及び *rkyang pa* という表現を辞書で調べると、各々主に二種類の意味が与えられている。

*yug pa* = 「脚」 或いは 「欲望」<sup>3)</sup>

*rkyang pa* = 「のみ (only)」 或いは 「伸ばす」

それ故に、*yug pa rkyang* という表現はこれらの言葉の組み合わせで四通りの可能性がある。ちなみに上述の三編の現代語訳を見てみると、Eckel 訳ではこの表現が全く翻訳されておらず、松下氏は「足を伸ばす」という訳を挙げるも、その意味については不明であると注釈している。また、長澤氏は「そちら一方の脚で」と訳しており、結局同じ訳は一つもない<sup>4)</sup>。一体この表現の元のサンスクリットは何であり、どのような意味を付託されていたのであろうか。結論を先取りするならば、この表現は基本的には「脚」+「伸ばす」という訳で読むべきであると思われる。以下にそれを論証する。

3. まず *yug pa* が脚の意味であると辞書において説明される場合、この言葉が *rkang pa* (脚) という言葉の古い表現であると書かれていることが注目に値する<sup>5)</sup>。この説明に従うなら、*yug pa rkyang* という表現は、*rkang pa rkyang* と書き換えることになる。そして前者の表現は SDVV と SDVP 以外の典籍に見出せないにも

関わらず、この後者の表現は Śrīgupta の *Tattvāvatāra-vṛtti* (TAV) に見出されるのである。ただし TAV においては *rkang brkyang* と書かれている<sup>6)</sup>。もっともただ同じ表現が用いられていると言うだけでは如何なる根拠にもなり得ないが、ここで最も重要なことは、*rkang brkyang* (TAV) と、*yug pa rkyang* (SDVP) という両表現の使われている文脈が各々の論書において奇妙なほど一致していることである。ここでその部分を全て挙げて比較するだけの紙幅の余裕はないが、略説するなら、SDVP では SDVV の無二を知る自己認識を否定する文脈の注釈部分であり、TAV に関しては、小林氏によって「自己認識によっても無二知は成立しない」という科文を与えられている文脈中に現れるのである。そして各々その最後部分において対論者の論理を否定する比喩として用いられているのである<sup>7)</sup>。加えて、松本史朗氏、小林守氏などによって、この TAV と SDVP の著者である Śāntarakṣita の *Madhyamakālaṃkāra* との間には様々な共通点があることが既に明らかにされている<sup>8)</sup>。さらに小林氏は、この *rkang brkyang* という表現を *yug pa rkyang* の松下訳と同様に「脚を伸ばし」と訳している<sup>9)</sup>。こうした事実に基づく限り、*yug pa rkyang* と *rkang (pa) brkyang* という両表現は元々同一のサンスクリットで書かれていたと考えることができるであろう。

4. それではその元のサンスクリットは一体どの様なものだったのであろうか。その手がかりとなるのが、Śāntideva の *Bodhicaryāvatāra* (BCA) である<sup>10)</sup>。この論書にも *rkang pa brkyang* という表現が見られ、この表現に対応するサンスクリットは、*pralambapāda* である<sup>11)</sup>。また *Prajñākaramati* は細疏 (BCAP) においてこの表現を次のように注釈している。

*pralambapādam* というのは、寝台などに上がっている時に、地面などに結びつけられていない脚のことであり、(そういう状態で) 座っているべきではない<sup>12)</sup>

この事実に従うならば、*rkang pa brkyang* (= *yug pa rkyang*) という表現はただ単に脚を伸ばすという意味ではなく、「脚が(伸びきって)地についていない」という意味であることが分かる。またこの表現が BCA において否定的な意味合いで用いられている点も併せて注意すべきである。何故なら、SDVV、SDVP、TAV 全てにおいて、この表現はその訳はともかくも否定的な意味合いを付与されていることは文脈から明らかだからである。

5. 最後に「欲望のみ」「欲望を伸ばす」或いは「脚のみ」という他の三つの訳も、基本的に SDVV 及び SDVP の文脈に合致し得ることは指摘しておく必要がある。しかし最初の二列に関しては、実際に欲望の意味のサンスクリットの翻訳語として *yug pa* が用いられている例を一例も見つけられず、又この訳語を挙げるのは蔵

漢大辞典のみであることから訳として説得性を欠くと判断した。また「脚のみ」という訳も既に例証した TAV との関係から採用しなかった<sup>13)</sup>。

6. 以上の結果, *yug pa rkyang* = *rkang pa brkyang* = *pralambapāda* という関係が成り立ち, この *yug pa rkyang* という表現に関しては「脚が地についていない」という訳を否定的な意味として与えることが妥当であろう。

- 1) 長澤実導 (1964) 『大乘仏教瑜伽行思想の発展形態』, 智山勧学会; 松下了宗 (1983) 「ジュニャーナガルヴァの二諦分別論—和訳研究 (上) —」, & (1985) 「同 (下)」『龍谷大学大学院紀要』第 5 集 & 第 7 集; M.D.Eckel (1987) *Jñānagarbha on the Two Truths*, State University of New York.
- 2) SDVV: Eckel (1987) p.165, l.12, SDVP: (D. 20a6-7).
- 3) *yug pa* は Jäschke に見られず, 「欲望」の意味は蔵漢大辞典のみに見られる。
- 4) Eckel (1987) p.80, 松下 (1983) p.48, 注 45, 長澤 (1964) pp.69-70, 注 13.
- 5) Lokesh Chandra *Tibetan-Sanskrit Dictionary supplementary vol. 6* にのみ “*Dirghāyurind-rajīnakośa*” が典拠として挙げられている。
- 6) TAV (D. 40b7), しかし TAV でこの表現は中間偈に用いられており, *pa* が省略されている可能性は十分ある。また *rkyang* は *brkyang* の派生語である。
- 7) 小林 (1992) 「シュリーグプタ作『真実への悟入』—和訳研究 (上) —」『論集』第 19 号, p.43.
- 8) 松本 (1978) 「*Jñānagarbha* の二諦説」『仏教学』第 5 号, pp. 109-137, 小林 (1992) 参照。
- 9) 小林 (1992) pp. 50-51 参照。
- 10) P. L. Vaidya. (1960) *Bodhicaryāvatāra of Śāntideva with the Commentary Pañjikā of Prajñākaramatī*, Buddhist Sanskrit Texts No.12., Darbhanga, (Tib.) D. (3871) la 1b1-40a7.
- 11) Vaidya (1960) p.73, ll. 28-29, Chapter 5, k<sup>o</sup> 92.
- 12) Vaidya (1960) p.73. l. 31.
- 13) また, Bon 教の文献中にも *yug pa rkyang* という表現が見出され, やはり「脚が地についていない」と訳するのが妥当であるように思われる。K. Mimaki and S. Karmay (1997) *Bon sgo gsal byed*, p.88, (I26b4).

〈キーワード〉 二諦分別論, *Jñānagarbha*, *yug pa rkyang*

(京都大学大学院・日本学術振興会特別研究員)